

| | | |
|--|--|---|
| <p>経営理念(ミッション・ビジョン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよく積極的に生きるための基盤として「郷土を誇りに思ふ心」を育て、地域や社会に貢献しようとする意欲や態度をもった人材を育てる。 ・変化の激しい社会の中で、グローバルな視点を持ち、国籍や互いの立場の違いを超えて、協調し協働して生きていくことができる力をつける。 ○育てたい資力・能力「活用力」「対話力」「乗りこえる力」「思いやり」 | <p><学校教育目標></p> <p>すすんで きたえ みがき のびる</p> <p>～社会の変化に対応できる心豊かたたくましい子どもの育成～</p> <p><めざす学校像></p> <p>○すすんで ……………. 子供の主体性を伸ばす学校</p> <p>○きたえ・みがき…………. 個々の持ち味を発揮させる学校</p> | <p><甲奴中学校区のみがす子供像></p> <p>「ふるさと甲奴を誇りに思い、主体的に学ぶ子供」</p> <p><甲奴小のみがす子供像></p> <p>☆自分が好き…夢(目標とする姿)を持ち自ら進んで最後までねばり強くやりぬく子供</p> <p>☆友だちが好き…友だちのよさを見つけ、自ら進んで一緒に働き、遊び、学ぶ子供</p> <p>☆甲奴が好き…身の回りに目を向け、甲奴のよさを見つけ自ら進んで表現できる子供</p> |
|--|--|---|

| 評価計画 | | | 自己評価 | | | | | | 学校関係者評価 | | | |
|--|---|---|---|-----|--------------------|-------------------|-----|--|--|---|---|---|
| 中期経営目標 | 短期経営目標 | 目標達成のための方策 | 指標 (効果を見とる目安)【担当】 | 7月 | | 12月 | | 結果の分析 | 改善策 | 評価 | コメント | |
| | | | | 目標値 | 達成度 | 目標値 | 達成度 | | | | | |
| 活用 対話 力 確かな学力の育成 乗り越える力 思いやりを育てる | ○基礎的・基本的知識・技能の習得と定着 | ・初任研の示範授業を生かし、相互に授業を見合うことによる授業改善 ・外国語活動の単元づくりの手法を他教科に活かす研修による授業改善 | 国語 | 80% | 82.0% | 103% | A | 69% | 86% | B | 【7月】国・算は、概ね目標値を超えて成果があった。しかし、社・理については目標値に及んでいない。学年較差も見られるが、資料や実験結果の読み取りができていない。 | 【7月】国語科・算数科の学習を他教科に活かす指導をより充実させる。特に、グラフや資料から分かる事をもとに、検討していく指導を行っていく。また、学年較差を解消するため、個別指導・繰り返し学習・復習をより一層行う。 |
| | | | 社会 | 75% | 63.0% | 84% | B | 70% | 93% | B | | |
| | ○対話のある授業づくりによる思考力・判断力・表現力の育成 | ・英語活動・外国語活動において、目的・場面・状況を明らかにした「対話」の場面を設定する授業づくり及び授業実践 | 英語活動・外国語活動の単元末の課題(フィードバック)において、場面や目的、状況による表現を使い分けていく児童の割合 | 75% | 93% | 124% | A | 95% | 127% | A | 【7月】全体としては達成できているが、高学年における対話力の「よくあてはまる」の回答が他学年に比べて低くなっている。 | 【7月】「場面や目的、状況による表現の使い分け」について、高学年に合った指導の仕方をさらに研究していく。表現の工夫については、さらにレベルの高いものを目指せるよう児童も達成目標を設定していく。 |
| | | | ・児童アンケート「思考・判断・表現」に関する項目の肯定的評価の割合 | 75% | 90% | 120% | A | 92% | 123% | A | 【12月】高学年における対話力に関する肯定的回答が大きく増加した。また、相手を意識した表現をした児童も増えている。学習発表会、研究会等の行事を通して、表現する力が伸び、自信がついたのではないかと分析する。 | 【12月】「場面や目的、状況」を明らかにした課題を設定し解決に向かう過程で児童の様々な思考や判断、表現が生まれる。外国語活動のみならず、他の教科等においても、思考力、判断力、表現力を培う課題発見・解決学習を目指す。 |
| ○学びに向かう力、人間性の涵養 | ・外国語活動・各教科において、児童の学習状況を適切に評価し授業改善、教育課程改善につなげる | ・国語・社会・算数・理科における主体的に学習に取り組む態度に関する児童アンケートの肯定的評価の割合 | 75% | 64% | 85% | B | 81% | 108% | A | 【7月】主体的に取り組む態度が、少し低いという結果にまつた。外国語活動については、粘り強く取り組み学び方を工夫することが出来ているが、他教科についてはばらつきが見られ、全体としては達成できていない状況になっている。 | 【7月】外国語活動で行っているゴールイメージを明確にした指導を引き続き行っていくとともに、他教科でも視点をもたふり返しを行っていく。また、指導者と児童との意識に差が見られるため、どんな姿になれば単元目標を達成しているかなど、単元の学習後の姿をしっかりと共有化していく。 | |
| | | ・高学年外国語活動における単元末の振り返り(単元の学習の振り返り)において、粘り強さや積極性、学び方を工夫しようとする態度)の肯定的評価の割合 | 75% | 97% | 129% | A | 97% | 129% | A | 【12月】各教科で単元末のゴールを明確にした指導を行った結果、主体的に取り組もうとする態度が、どの教科でも高まり目標値を上回った。外国語活動で行ってきた指導が、他教科にも波及してきた。 | 【12月】今後も、外国語活動で行っているゴールイメージを明確にした指導を各教科でも引き続き行っていく。また、学んで変容した事柄など振り返りの視点をより具体的に示した指導と、単元後の姿をしっかりと共有した指導を行っていく。 | |
| 豊かな心の育成 規範意識を高め、思いやりの心を育成する | ○規律ある学校生活 | ・一斉下校、朝会時等における全体指導 ・挨拶は、「いつでもどこでもだれにでも」を徹底する ・月ごとにテーマを決めて児童会掲示板を利用し、友だち同志相互評価する | 「あいさつ・無言掃除・無言集合」に関する生活アンケートで肯定的に自己評価する児童の割合、及び教職員の見取り調査【和田】 | 85% | 98% | 115% | A | 71% | 84% | B | 【7月】挨拶＝「自分から」「気持ちの良い」に課題が大きい。掃除＝取り掛かりは早いのが、隅々まで一生懸命でいい。集合＝行事などで全校指導をしたので概ねできている。 | 【7月】「いつでもどこでもだれにでも自分から」を合言葉に指導し、目に見える評価をする。掃除をする時間を徹底し仕方を指導、評価する。掃除道具も整備・改善する。引き続き落ち着いた無言集合させ評価する。 |
| | | | 【12月】挨拶＝取組により意識して気持ちの良い挨拶ができた。友達同士の挨拶が弱い。掃除＝丁寧にできる児童が増えた。集合＝行事などで全校指導したが定着には至っていない。 | 85% | 95% | 112% | A | 92% | 108% | A | | |
| | ○思いやりの心の育成 | ・ふわふわ言葉の常態化をめざす生活指導 ・道徳の時間の充実 ・縦割り班遊びを通して異学年との関わりを深める | ・「思いやりの心」に関するアンケートで肯定的に評価する児童の割合【石川】 | 85% | 94% | 110% | A | 95% | 110% | A | 【7月】行事や休憩時間で異年齢交流を多く仕組んだ。人を傷つけるような発言があったが、その原因とこれから自分も相手も大事にすることを児童ととも話し合った。 | 【7月】人権について、道徳を含め児童が学ぶ機会を増やし、常に自分事として考えさせていく。また、様々な場を捉え、繰り返し指導していく。 |
| 健やかな体の育成 自ら目標をもち、進んで体力の向上、健康の保持増進に取り組む意欲・態度を育てる | ○体力の向上 | ・外遊びの推奨 ・毎週金曜日にランタイム(業間運動)を設定し、最終金曜日に縦割り班遊びを実施 ・水泳記録会、マラソン大会、縄跳び検定の自己目標の設定 | ・新体力テストの分析に基づく取組の結果、平均値を上回る項目の割合【梅田】 | 75% | 33.3% | 44% | C | 66.6% | 88% | B | 【7月】新体力テストの結果、男女ともに握力(33%)、長座体前屈(50%)、シャトルラン(16%)が平均値を下回った児童が多い。水泳の自己目標を達成した児童の割合は80.8%だった。(天候不順のため校内水泳記録会未実施) | 【7月】握力、長座体前屈、シャトルランの力を向上させるための取組として、「授業で鬼遊びを取り入れる」「授業でストレッチに取り組む」「ランタイムの実施を増やす」など全校を挙げて取り組む。自己目標を達成できるように、目標の立て方の指導と、日々の体力づくりの推奨を行う。 |
| | | | ・自己目標を達成した児童の割合【梅田】 | 85% | 80.8% | 95% | B | 74% | 87% | B | 【12月】第2回新体力テストの結果、握力は男子50%、女子66%に向上した。長座体前屈は男女ともに66%に向上した。20mシャトルランは男子66%、女子83%と大幅に向上した。マラソン大会の自己目標を達成した児童の割合は73.8%だった。(資料2) | 【12月】授業で鬼遊びを取り入れる」「授業でストレッチに取り組む」「ランタイムの実施を増やす」などに全校を挙げて取り組んだことで、記録が向上した。3学期実施のなわびについても、自己目標を達成できるように、目標の立て方の指導と、日々の体力づくりの推奨を行う。 |
| | ○健康的で規則正しい生活の実践 | ・朝食、生活リズムについて全体指導をする ・アンケートによる基本的な生活習慣の実態把握 | ・朝食・生活習慣に関するアンケートで、肯定的に評価する児童の割合【曲田・出口】 | 85% | 朝食 99.5 生活 79.7 | 朝食 117 生活 93.8 | A | 朝食 91.9 生活 61.6 | 朝食 108 生活 96.0 | A | 【12月】朝食を食べる割合はほぼ100%である。しかし、主食+1品以上食べている割合は平日91.9%、休日88.7%であり、内容・質・量に課題がみられた。自分で決めた時刻に起床する、就寝することが守れた日の割合が1学期より若干良くなっているが、就寝時刻が遅くなる児童が固定化している。また、休日に特化すると守れた日の割合が下がる。 | 【12月】食に関する指導において、授業・食育朝会を中心に朝食の指導を行ったり、担任に協力して頂き、日々の聞き取りや、家庭学習と結びつけて事後指導をして頂いた。課題として、休日の値が低いことが挙げられる。児童が自ら簡単にパランスがとれた朝食を準備することができるように支援していくことが大切であると考えられる。調査期間だから頑張るのではなく、生活リズムが整っていることが重要であることを引き続き、保健便りや朝食、学級指導などで指導していく。 |
| ・保護者アンケートでの、肯定的評価【宮本】 | 75% | 76% | 101% | A | 77% | 103% | A | 【12月】基本的な生活習慣に関わるアンケート項目「早寝、早起き、朝ご飯が身についている」の項目については、1回目の調査より、少し増えた結果になっているが、「ストップ9」を守ることができている」の項目は増えていない。(資料3・4) | 【12月】食に関する科学的な視点から指導する。高学年には、睡眠について科学的な視点から指導する。【12月】保健便りや朝食、学級指導などで「早寝、早起き、朝ごはん」の指導は行ってきた。一方で、メディア視聴・ゲーム等についての指導は、長期休暇前や個人懇談等で行ったが、十分ではなかった。今後も継続課題である。 | | | |

(自己評価) 達成度＝達成値÷目標値 A:100≤(目標達成) B:80≤(ほぼ達成)<100 C:60≤(もう少し)<80 D:(できていない)<60

(関係者評価) 4:自己評価は適正である 3:ほぼ適正である 2:やや改善の必要がある 1:改善の必要がある 0:わからない